

発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
購読料 1カ月5343円+税
電話 東京(03)5777-2351代表
©日刊自動車新聞社2020

10月16日
(金曜日)

日刊自動車新聞

1-497

検索

緊急時は合わせガラス不使用の両サイドが脱出経路に



東日本を中心に猛威を振るった2019年台風19号の発災から12日で1年を迎えた中、ドアガラスを叩き割って車外へ脱出するための緊急脱出用ハンマーの市場規模が伸長している。オートボックスセブンによると、20年7~9月のハンマー売り上げ本数は前年同期比で約1.6倍に達した。緊急時の避難や移動の手段として自動車利用されるケースは少なくない一方、エンジンやモーターが浸水すれば走行不能となるだけでなく、車外の水位が一定の高さに達すると車内からドアを開けることもほぼ不可能となる。こうしたトラブルに備える必須用品として、脱出用ハンマーのニーズが高まりつつある格好だ。(内田 智)

大規模被害でた台風19号から1年

用品 / 補修

政府も周知活動

昨年の台風19号では、災害関連死を含めた死者が1000人を超える(20年4月時点、内閣府調べ)など、台風被害としては近年まれに見る激甚なものとなった。特徴的だったのは、車内で亡くなった人の割合が大きかった点だ。1999年から2018年の20年間では、屋外での死者数のうち車内で亡くなった人の割合は3割未満だったが、19年台風19号では5割を上回る。脱出用ハンマーを車載し使用方法を習熟していれば、死亡リスクの低減につながっている

脱出用ハンマー 高まるニーズ

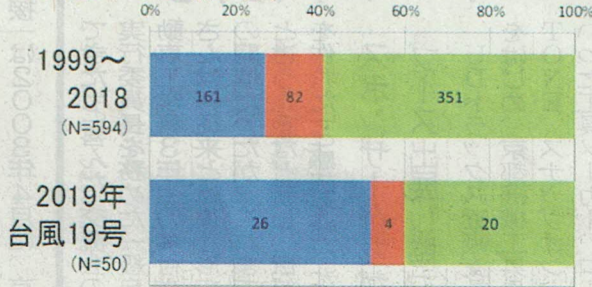


た可能性は高い。こうした背景から政府は、ハンマーの周知活動を強化し

ユーザーの安全意識向上

従来から実施していた脱出用ハンマーの周知活動を強化し

●屋外での犠牲者



- 近年の災害と比べ「車内」の率が高い
- 「車が危険(だから徒歩で移動)」ではない
- 人も車も洪水時には容易に流される。風雨が激しいときの屋外移動がそもそも危険

2019年台風19号による人的被害の調査(速報2019年11月12日版) 静岡大学防災総合センター 牛山素行 より引用

7~9月の売り上げ1.6倍に オートボックス

講習会を実施しているほか、新車・中古車販売店でも車両購入時の同時購入を推奨する動きが本格化している。オートボックスの広報担当者も「安全商品だけに、店頭在庫を絶やさないよう気を配っている。車検などでの入庫の際にも重要性を説明し、購入を提案できれば」と話す。

信頼性高いものを

急速なニーズ拡大の陰で懸念されるのが、使用に適さない製品の流通だ。車載消火器・脱出用ハンマーを製造するワイピーシステム(埼玉県所沢市)の吉田英夫代表取締役は「市販品には女性や高齢者の腕力ではガラスを割れないものや、夏場の車内温度上昇で変形してしまうものも少なくない」と指摘する。同社は脱出用ハンマーのJIS規格化を経済産業省に提案し、16年に規格制定を実現した。「使うときは命にかかわるとき。信頼性の高いものを購入してほしい」と話す。

脱出用ハンマーは搭乗者の

生命確保に直結するだけでなく、他車の救援時にも役立つ。シートベルトカッターや消火器と一体となった多機能商品も多く、緊急時の生存可能性を高めるための選択肢は増えつつある。風水害が激甚化する中、官民が一体となってユーザーの安全意識を高め、いっそうの普及を促すことが望まれる。